石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

本年4月、創立30年を迎えました

外国人観光客に石巻の魅力PR
Pepperがおもてなし

Pepperを操作し、観光案内する学生（右）

豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」（乗客2706人）が9月18日、石巻市の雲雀野（ひばりの）中央ふ頭に初寄港。市を挙げてウエルカムフェスタが行われた中、高大産連携プロジェクトの一つ「Pepper（ペッパー）社会貢献プログラム」では、外国人観光客向けに石巻市の魅力をPRした。

同プログラムは今年度、五つのプロジェクトを展開。今回は「まちなかポスタープロジェクト」（経営・舛井道晴ゼミ、石巻市立桜坂高校、ソフトバンクグループ）がイベントに携わった。

会場となった石巻市かわまち交流センターに、2台のPepperを設置。「歓迎のあいさつ」と「石巻の名所・名産」を日本語と英語の2カ国語で紹介。来場者は案内を聞いたり、石巻の魅力や観光情報を入手したほか、記念写真や動画を撮影するなど、Pepperとの触れ合いを楽しんだ。

舛井ゼミでプログラミングを担当した青木佑（ゆう）生さん（経営2・宮城県東松島高）は「英語での説明に不十分な点があり、当日、急にプログラムを修正するなど、対応力が試された。今回学んだことを生かし、今後さらに多くの方に喜んでいただけるようにコンテンツを改良していきたい」と話した。

※石巻専修大学はPepper社会貢献プログラムに参加しています

高大産連携プロジェクト
家族ロボット教室を開催
小学生ら27組が参加

完成したロボットを走らせる子どもたち

9月29日、高大産連携プロジェクトの一環として、家族ロボット教室（経営・工藤周平ゼミ、石巻工業高校、石巻西高校、富士通コンピュータテクノロジーズ）を本学で行った。

教室には石巻市と女川町の小学3～6年生とその家族27組が参加。自立型ロボット「教育版レゴマインドストーム」の組み立てと、タブレットを使ったプログラミングに取り組んだ。子どもたちは大学生や高校生らの指導を受けながらロボットを完成させ、ものづくりの楽しさを体感した。

同プロジェクトは昨年度から活動。工藤ゼミでは、経営戦略を専門としながら、プロジェクトにも取り組み、幅広く経営学を学んでいる。当日を迎えるまでに事前研修を受けるなど、入念な準備を行った。

鈴木拓人さん（経営2・山形県米沢中央高）は「トレーナーとしてアドバイスする上で、最初から答えを伝えるのではなく、子どもに考えさせることを意識してヒントを伝えた。貴重な経験となったので、次回以降も参加したい」と話した。

「地域と政策」開講
自治体職員招く

後期開講の教養力養成科目「地域と政策」（担当＝横江信一人間学部特任教授）は、石巻市職員など地方行政に携わる方を招き、自治体が直面する課題と地域社会の在り方について学ぶ。今年度は54人が受講し、講義とグループワークを通して、より良いまちづくりについて考察する。

10月9日の第2回講義では石巻市役所の復興事業部集団移転推進課の職員が講師を担当した。市が46地区65団地で進めてきた防災集団移転促進事業について、今年4月に終了したばかりの河北地区の二子団地を事例に解説した。学生たちは講演を聞いた後、政策によって生じる問題や地域コミュニティーの変化などについてグループに分かれて議論した。

戸田大さん（人間1・宮城県石巻北高）は「東日本大震災から7年以上が過ぎ、復興から関心が薄れていたことに気付いた。講義をきっかけに地域の問題に目を向け、自分ができる地域貢献について考えたい」と話した。

講義のテーマは毎回異なり、復興、地方創生、財政、観光、福祉、教育など多岐にわたる。11月には亀山紘石巻市長（元理工学部教授）も登壇する予定で、市の取り組みを紹介し、学生たちと意見を交わす。

国内留学5人 体験を伝える

専修大学生田キャンパスでの国内留学を終えた経営学部3年次生の5人が2年次生対象の教務ガイダンス（9月26日）に参加し、講義やゼミ活動の内容、生活の様子など、自らの体験を後輩に伝えた＝写真。

国内留学の参加学生は菅原謙斗さん（宮城県仙台育英学園高）▽熊谷祥さん（宮城県宮城広瀬高）▽小野寺一樹さん（宮城県仙台育英学園高）▽阿部舜さん（宮城県名取北高）▽千葉雄大さん（岩手県一関第一高）。

熊谷さんは「専大の学食では特に100円朝食を利用していた」など生活に関する情報を報告。阿部さんは「自分の殻を破りたいと思って参加した。充実した半年間を過ごすことができた。何かに挑戦したいと思っている人は参加してほしい」と振り返った。

ガイダンス終了後には、多くの2年次生が先輩たちに質問していた。齋藤ひかりさん（経営2・宮城県石巻市立桜坂高）は「体験談を聞いて、参加したい気持ちが強くなった。不安もあるが、新しいことにチャレンジしてみたい」と意気込みを語った。

メーコン大訪問 学生5人が交流

日本語クラスの授業に参加し交流を深めた

国際交流協定校のランドルフ・メーコン大学（米国バージニア州）との交流事業が8月31日から9月13日まで実施された。石巻専修大学から学生5人と教員2人が派遣され、東日本大震災に関連した調査研究の発表や首都ワシントンで政府関連施設などの視察を行った。授業にも参加し、同大の学生らと交流した。

同大と本学はティラー・アンダーソン記念基金を通じて2015年から交流を始め、今年1月に国際交流協定を締結。今回の交流事業も記念基金の支援を受けた。

大橋星哉さん（理工3・宮城県石巻好文館高）は「視察で、自分の研究分野に関連する博物館を訪れることができ、新しい知識を得ることができた」と成果を話した。

菅原徹也さん（経営3・宮城県築館高）は「初めての海外だった。バレーボール部の練習に参加させてもらったが、部員のみんながフレンドリーで、言語の壁がスポーツを通じて解消されていくことを実感した。研究についても多くの発見があり、有意義な研修になった」と振り返った。

研究室探訪 ―③―
異文化学ぶ面白さ伝えたい

人間学部人間文化学科
目黒志帆美 助教

個別面談に応じる目黒助教（右）

ハワイと聞いてどんなことを想像するだろうか。ハワイ史研究者である私は、「人気の観光地」といったイメージから離れた19世紀の王国時代のハワイを分析している。日系人移民が初めてハワイに渡ったのが1868年。その移民団でリーダーシップを発揮した石巻市出身の牧野富三郎など、今後は石巻とハワイの交流史について調査を進めていきたい。

担当は「英米文化論」や「英語」。異文化を学ぶ面白さを伝えたいと考えている。英語が苦手という学生が親しみを持てるよう、毎回の授業でヒットしている洋楽を取り上げる。歌詞の意味や発音を確認することで英語の面白さが実感できる。「授業は劇的空間」というのは大学院時代の恩師の言葉。教員は教える立場だが、学生から学ぶことも多い。自分も学ぶ姿勢を忘れないように心がけている。

素朴な疑問から問題解決に迫るのが学問研究の本質。学生には常に疑問を持ち続けてほしい。当たり前と思ってきたことでも、一度立ち止まって「なぜだろう」と考えてほしいと思う。

〝杜の都駅伝〟出場へ

第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（10月28日、宮城県仙台市）の東北地区代表選考会が9月24日、岩手県の北上総合運動公園で行われた。女子競走部は2位で、2年ぶり3回目の〝杜の都駅伝〟出場を決めた。牧野主将は「4年次生にとって大学最後の駅伝となるので、チーム全員で心を一つにして頑張りたい」と話した。

選考会は3人1チームでタスキをつなぐ駅伝方式。2チームの合計タイムの上位2校が出場権を獲得する。

【予選会出場メンバー】
▽牧野あや主将（経営4・岩手県北上翔南高）
▽千葉悠里奈さん（人間4・宮城県常盤木学園高）
▽庄司琴美さん（経営3・宮城県聖和学園高）
▽樋口亜沙美さん（経営2・山形県山形城北高）
▽丹野稚妃路さん（経営1・宮城県聖和学園高）
▽千葉彩有花さん（人間1・宮城県常盤木学園高）